

自由民主党青年局の皆様へ

青年局の皆様の日頃の精力的な活動に敬意を表します。

文部科学省では、GIGAスクール構想による一人一台端末環境の実現とポストコロナの新たな学びが求められる状況を、「令和の日本型学校教育」とも言うべき新しい時代の教育を実現する好機と捉え、党としての決議や地方団体・教育関係団体からの多数の要望も踏まえ、少人数による指導体制の計画的な整備に向けた議論を展開してまいりました。

そしてこの度、令和三年度予算案の編成過程における財政当局との折衝の結果、来年度から五年をかけて小学校の全学年で三十五人学級の取組を進めることとなりました。

この間、青年局の皆様には、各地方議会での活動等を通じて意見書の採択に御尽力いただくなど、少人数学級の推進に向けた大きな流れの推進役を担っていただいたものと承知しており、大変力強い後押しをいただいたことに心より感謝申し上げる次第です。

少人数学級の計画的な推進（学級編制の標準の計画的な引下げ）は、四十五人学級から段階的に現在の四十人学級とすることとした昭和五十五年以来、実に四十年ぶりのことです。安倍内閣のもとで議論を開始し、菅内閣のもとで方針決定に至ったものであり、菅内閣による教育改革の第一歩となるものです。

今般の方針決定を受けて、次期通常国会に向けて速やかに必要な法改正の準備を進めるとともに、新たな学びを支える人材確保等の取組について、国と地方が連携し、定期的に検証・改善を図るための協議の場を設ける予定です。

当面は小学校で少人数学級の取組を進めることとなりますが、新たな学びの環境整備の必要性は中学校においても変わるものではないと考えており、協議の場を通じて小学校での取組状況をしっかり検証した上で更なる取組を検討していく所存です。

文部科学省としては、学校におけるICT活用と少人数学級を両輪とし、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、引き続き全力で取り組んでまいります。青年局の皆様には、国・地方の議会活動等を通じて、引き続き御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和二年十二月

文部科学大臣

第四十一代青年局長 萩生田 光一